

焼津空き店舗に来月食堂オープン

商店街活性化へ 「高齢者の力」

焼津市シルバー人材センター(深田勝理事長)が11月15日、同市神武通り商店街の空き店舗を活用して直営食堂「かるがも 夢 倶楽部(くらぶ)」をオープンする。会員の特技を生かした雇用機会の創出、高齢者の交流の場づくり、子育て支援、商店街の活性化など複数の目的がむすび付いた店舗。同センターは「高齢者の力で地域を元気にしたい」と意気込み、すでに仮営業に取り組んでいる。

市役所アトleshin倉近く、うわさを聞きつけての神武通り。オープンに多くの人が訪れた。向けて9月28日に直営食堂が仮営業を開始した。キッチンやカウンター、テーブルがある33平方メートルの店内。会員が育てた新鮮野菜や趣味を生かした手芸品が格安で販売さ

雇用創出、交流の場に



仮営業を開始した焼津市シルバー人材センター直営食堂「かるがも 夢 倶楽部」＝9月末、焼津市の神武通り

の遊びの体験会なども開催する計画だ。「地域の高齢者が集まり、会話を楽しむサロン的な場にしていきたい」。同センターの担当者はこう意図を語る。食堂の従業員や宿題教室の先生役などはもちろん、同センター会員の高齢者。調理師や食品管理栄養士、教諭、保育士など

それぞれの経歴や特技などを生かす。まだまだ元気な会員も多いため、「働くことが会員自身の生きがいにつながれば」(同センター)との思いも込める。商店街は空洞化が進み、にぎわいを失いつつあるのが現状。商店街の関係者も「(食堂が)多くの人が訪れるきっかけになってほしい」と起爆剤としての効果を期待している。